道徳通信

ひだまり

令和5年7月20日（木）
足立区立中川東小学校
道徳通信　第４号
校長　豊田　純子
道徳教育推進教師　前田　康介

◇道徳授業地区公開講座　特集◇

先日の道徳授業地区公開講座では、ご多用の中ご参観いただきありがとうございました。

≪道徳授業の様子≫

本校の子供たちは、素直で相手を思いやる温かな心が育っていると実感しています。しかし、放課後など、大人の目の届かない時間に「ルールを守れない」「ダメだとわかっていても、良くない行動をとってしまう」等、度々問題が起こっているのも現状です。そこで、自分を律したり、善悪を正しく判断したりする心や態度を育みたいと考え、全学級「自分との関わりに関すること」をテーマに授業を実践しました。

≪学級懇談会の様子≫

学級懇談会では、道徳授業実践についてや子供たちの「心の教育」について意見交流をしました。保護者や地域の方々から「子供たちが、〇〇と発表したのが深いなぁと思った。」「〇〇さんの発表になるほどなぁと思った。」という子供たちの学習に対する声をいただいたり「〇〇って先生が子供たちに聞いて、子供たちがう～んって考えていて良かった。」と授業に関して話し合ったりすることができました。家庭で見られる子供たちの心の成長や課題についても伺うことができ、２０分間では物足りないくらいに充実した時間となりました。

≪講演会の様子≫

講演会では、江東区立明治小学校　校長　赤堀美子先生をお迎えし、「心を育てる」というテーマでご講演いただきました。赤堀先生からは、現代の子供たちの心の課題改善に向けて、学校・家庭・地域が連携を図り、どのような道徳教育を実践すべきか教えていただきました。赤堀先生のお話に、教員だけでなく、保護者や地域の方々も大きく頷いていた姿がとても印象的でした。赤堀先生のご講演にもあったように、子供たちの心をより豊かに育む道徳教育は、子供たちを取り巻く様々な環境（学校、家庭、地域）の中で行っていく必要があると改めて感じました。

≪保護者や地域の声≫　　*＊道徳授業地区公開講座アンケートより一部抜粋*

・「子供たちは、先生と対話しながら、また、友達と対話しながらそれぞれの意見を引き出してもらっていくことで、自分自身と向き合っていく時間だったと感じました。」（こども園教員）

・子供が６歳になるまで関わるのは親です。つまり子供の道徳心は親の道徳心そのものだと考えられます。子供は大きくなるにつれて関わる大人や世界が増えるので自分で多様な道徳を学んでいくでしょう。今回の講義で自分を振り返り、考えなければならないのは我々保護者でもありました。（１年生保護者）

・道徳の授業１時間では、すぐに心の成長は期待できないとのこと。本当にそのとおりだと思いました。家庭・学校・地域が１つとなり、同じ方向を向いて子供の心を育てていけたらよいなと思いました。（２年生保護者）

・「学校と親で子供を挟むのではなく、同じように子供の方を向いて一緒に育てていく」という言葉が、まさに中東の先生方が実践してくださっていることだなと思いました。（３年生保護者）

・大人になっても道徳授業は難しいものだと実感しました。節度・節制は大人の方が守らなければいけない場面がたくさんあります。子供に注意する前に、大人が自分の行動を見直す必要がありますね。（４年生保護者）

・授業を通して「Ａという答えが正しいということを理解するだけでなく、Ｂという答えもある」ということを知ってほしいということを学びました。今まで道徳の授業は、正しいことを学ぶ場だとばかり思っていました。勉強になりました。（５年生保護者）

・今後も親として、一人の大人として、子供の心の成長を見守り、間違った方向にいきそうな時は早めに気付き、そっと寄り添って共に悩み、解決できる力を身に付けるサポートをしていきたいと思います。（６年生保護者）